

令和2年度 福岡市立〔 柏原小 〕学校 学校評価実施状況(公表用)

| めざす学校像・子ども像・教員像 | | 課題 | 今後の改善方策 |
|--|---|--|---|
| 【めざす学校像】 自律・協働・創造に邁進する学校 【めざす子ども像】 自ら学び、心やさしく、たくましく生きる、豊かな社会力を身に付けた子ども 【めざす教師像】 専門性を備えた、人間性豊かな教員 | | 学習の基礎基本の定着と徹底 自尊感情の向上 健康な身体づくりと安全な生活態度の定着 | ○ どの子どもも「わかる・できる」授業づくりについて書く活動を工夫し、学びに向かう力の育成に努める。 ○ 次年度は帯タイムをもうけ、ICTを活用した補充を位置づけ、個に応じた基礎基本の定着を図る。 ○ 友達や先生が自分のことを理解してくれていると感じている子は85%であり次年度も教師の教育相談の充実を図る。 ○ 学年行事、学校行事等で子ども達のよさを生かすことができるよう工夫して取り組む。 ○ 落ち着いた学校生活を送ることができるよう、挨拶、掃除、廊下歩行等めあての持たせ方を工夫し取り組む。 ○ 体力向上で取り組んだ縄跳び運動は次年度も継続して取り組む。 |
| 重点目標 | 指標(取組指標・成果指標) | 達成状況についての説明 | |
| わかる喜びを味わわせる授業づくりに取り組み、学習の基礎・基本の定着と徹底を図る。 | ○ 自ら課題意識をもち、粘り強く学習に取り組めたと回答する児童の割合が70%。 | ○ チャイム席や学習の準備等ができたと回答した児童は90%であった。また、自分の考えや意見を作ることは80%の児童ができたが、それを交流することができなかつたと回答する児童も多い。引き続き、子ども達が課題意識を持って解決する学習のあり方や互いに考えを交流できる学習のあり方について授業改善に取り組む。 ○ 2学期に読書週間を設け、学年に応じた目標冊数を掲げ、目標に到達した児童を掲示する取り組みを行ったときには、全校で読書活動が活発化した。継続は難しく、児童の自己評価アンケートでは「読書に親しんだ」と回答した子どもは60%にとどまり、特に読書に親しんだ子とそうではない子と二極化した。 | |
| | ○ 進んで読書活動に親しんだと回答する児童の割合が80%。 | | |
| | 00 | | |
| 自尊感情を育み、望ましい人間関係づくりを構築する。 | ○ 学級会活動、児童会活動において子どもの発想や願いを考慮しながら活動意欲を高める指導に努める教師の割合が90%。 | ○ 子どもの発想や願いを考慮し、指導に努めたとする教師の自己評価92%で学級会活動や児童会活動においてことができ、児童の自己評価アンケートでは「工夫して活動できた」と回答した子が87%であった。 ○ 「1人1人の教育的ニーズに応えるよう具体的な指導や支援に努めた」と回答した教師の自己評価では93%であった。 ○ 「将来の夢がある」と応えた6年生は82%であった。 | |
| | ○ 配慮を要する児童の実態を把握し、学年や管理職、保護者、関係機関と連携しながら指導や支援に努める教師の割合が90%。 | | |
| | ○ 「自分にはよいところがある」「将来の夢がある」「人の役に立つ人間になりたい」と回答する6年生の割合が70%。 | | |
| 00 | 00 | | |
| 友だちと協力しながら、最後まで粘り強く取り組む態度を育成する。 | ○ 遊び方の指導や生活のめあての指導により、骨折、縫合などの重篤なけがの発生が昨年度より10%減。 | ○ 昨年度の6月から12月と本年度の6月から12月までを比較すると、本年度の怪我の発生は約400件減少できた。 ○ 「給食指導や健康教育の推進に努めた」と回答する教師の自己評価は96%であった。「縄跳び運動に取り組めたか」という児童評価では85%が取り組めたと回答し、「健康な体作りを意識した給食」では児童評価が86%であった。 | |
| | ○ 食育指導や保健学習により、健康な体づくりを意識して運動習慣や食事をしていこうとする児童の割合80% | | |
| | 00 | | |
| 00 | 00 | | |
| 学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等) | | | |

- コロナ禍で学校の子どもの様子を参観することができなかつた。ようやく全校の様子を参観でき、どの学級も落ち着いて学習していることがわかつた。
- 学校の教育活動の取り組みと進捗の説明を聞き学校の取り組みを理解できた。